

栃木県農業大学校 令和7年度学校評価シート

目指す方向 **魅力ある農大づくり ～農大の価値を高め、とちぎの農業を担う人材を育成する！～**

重点目標	現状と課題	評価項目		取組項目		経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善方向	関係者評価委員会からのコメントと回答
		評価指標	具体的方策	学部・塾	内容				
1 入学生の確保 (就農を目指す応募者の増加)	<p>(現状)</p> <p>○入学人数は H23研究科廃止以降、平均64.6名と少なかったが、R3いちご学科創設以降は、平均73.3名と増加した。ただしR7は68名であった。</p> <p>○R6のオープンキャンパスの参加者は183名で、目標の160名を上回った。</p> <p>○R6のとちぎ農業未来塾の受講希望者数は71名で、目標の70名を上回った。</p>	<p>入学生(定員) 80名 (内訳)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業生産学部 70名 ・農業経営学部(いちご学科) 10名 <p>とちぎ農業未来塾生 70名以上</p> <p>オープンキャンパス全体参加者数 160名以上</p>	<p>(1)農業大学校の情報、魅力の発信</p>	<p>学部・塾</p>	<p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○オープンキャンパス(OC)等による農大の理解促進 ・参加者の農業理解度に合わせた農業関係高校OC(学生会交流会重視)、一般高校等OC(実習重視)を実施 ・いちご学科は一般高校等OCの他、単独OCを実施 ・OCプログラム等の工夫(在校生の生の声を届ける/県立学校ならではの強みを伝える) ・HP・ポスター・チラシ等による適時適切なPR 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内農業関係高校対象(農業生産学部のみ)1回開催(5月) ・一般高校対象2回開催(6月、8月) ・いちご学科単独3回開催(4、10、1月)うち4回を日曜祝日に実施(参加学生:157名) ・農大生との交流会、実習体験等、高評価の企画を実施 ・学生募集チラシ等を早期(5月上旬)に作成・配布 	<p>入学生 54名</p> <p>(内訳)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業生産学部 49名 ・農業経営学部 5名 <p>とちぎ農業未来塾生 67名</p> <p>オープンキャンパス全体参加者数 157名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農業関係高校進路指導主事を対象とした学校説明会等を実施し、農大への理解促進を図る。 ・社会人でも参加しやすいよう日曜日を中心に開催する。 ・OC参加の生徒・保護者には、農大卒業後の進路や就農の成功事例について、より具体的に示して、本校のPRをしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・非農家出身者が増えている現状を踏まえ、普通高校等へのアプローチも増やすべき。 ・高校再編が進む中、進路指導担当者が農業大学校について詳しくないケースもある。そのため、進路指導主事を対象とした見学会は有効 <p>→まずは農業関係高校をターゲットとして進路指導主事との情報交換を5月に開催。あわせて、農業高校に限らず多くの高校へ積極的に出向き、学校説明会を行っていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校で農業に興味を持ってもらい、農大で専門的な知識・実践的な技術を修得してもらうなど、高大連携による一貫した農業人材の育成が必要 <p>→高校との連携を強化し、若い人材の確保・育成に努めたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNSは低コストで若者に届きやすい発信手段であるのでPRに活用すべき。 ・日々の学生の学びや先輩の活躍を紹介するなど農業大学校独自のホームページの充実を図って欲しい。 <p>→SNSは発信体制を整備中。HP等も掲載内容を充実し学校PRの強化に努めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生が誇りを持てるよう、アカデミックな称号の授与などに取り組んではどうか。 <p>→他県の事例等を調査してみたい。誇りの持てる学校づくりに努める。(現在は、学校教育法に規定された「専門士」の称号が付与されている。)</p>
				<p>生産学部</p> <p>経営学部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高校への出前授業、高大連携、JA等への農大PRの推進 ・学校説明会や出前授業等への積極的な参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校の進路説明会20校33回参加(学年別で開催のため同じ学校に複数回参加あり) ・鹿沼南高校による農大見学会を実施し、1年生36名が参加 ・オンライン授業の実施 鹿沼南高校 3回 真岡北陵高校 1回 ・パワフルアグリフェア(7月)、県農業総合研究センター公開デー(8月)に参加し、パネル展示、農産物直売等を実施しPRを実施。 ・トチノフェア(7月、11月)に相談窓口を設置し、農大へ勧誘 ・鹿沼南高校で行われた進路講話に卒業生である1年生を派遣(1月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路相談会に積極的に参加し、農業と農大の魅力についてPR ・農業関係高校による農大見学会を受け入れていく。 ・早い時期から高大連携を実施 ・JA等へのPR活動の継続のほか、就農相談会で窓口を設け誘導する。 ・東京で開催される新農業人フェアにブースを設け、積極的に勧誘する。 		
					<ul style="list-style-type: none"> ○HPの充実、県SNSの活用 ・各学部、学科等の情報の日常の学習風景を含めたきめ細かな発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・HPで学習風景を随時発信。県SNSも積極的に活用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続ききめ細かな情報を発信する。特に動画による発信を検討する。 ・農大独自のSNS開設の検討 		
					<ul style="list-style-type: none"> ○マスメディアの活用 ・新聞・各種広報誌等への情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・季刊誌「しもつけの心」で在校生の活躍を紹介(4回) ・県農業共済組合広報誌(NOSAIとちぎ)2025春号に農大OB・OG特集 ・リビングとちぎ5月号に畜産学科の学生の活躍を紹介 ・読売新聞にいちご学科の取組を紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・経営技術課を通し、新聞社や放送局等にイベントや学生募集等の情報を発信依頼 ・季刊誌(しもつけの心)等で継続して学生を紹介して本校をPRする。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ○広報物によるPR ・キャンパスガイドや学生募集チラシ等の県内外高校等への速やかな配布 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係団体や金融機関等に学生募集のポスター掲示やリーフレット設置を依頼 	<ul style="list-style-type: none"> ・活躍している卒業生のチラシを作成しPRする。 						

重点目標	現状と課題	評価項目 評価指標	取組項目		経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善方向	関係者評価委員会 からのコメントと回答	
			具体的方策	内容					
<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●高校生に対して、農業大学の存在や特徴を認知してもらい、就農を目指す応募者の増加を図る必要がある。 ●「いちご学科」について、農業振興事務所や農業関係団体等との連携と併せて、高校生・大学生、社会人、農業者等幅広い年代への積極的な広報活動等により、「いちご経営者」を目指す学生の確保を図る必要がある。 ●とちぎ農業未来塾の受講希望者や品目については、柔軟な受け入れ体制が必要である。 			学部・塾 生産学部 経営学部 未来塾	○農大の魅力発信 ○学校生産物販売等によるPR ・農大祭、校外販売実習の実施	・農大祭で農大産農産物を販売（11月：来場者4,000人） ・校外販売実習の実施（カインズホーム：9回） ・清原地区農業祭（11月）に果樹専攻が参加し、本校産くり販売と農大PRパネル展示 ・東京で農大産いちご対面販売実施（新宿高島屋2月） ・県庁生協食堂の食材に農大産いちご、なし、トマトを提供しPR ・ましこカンパニー、栃木リキュールへ本校産シャインマスカット出荷しPR		・農大祭では生産物販売の他、卒業論文紹介等、学習成果のPRを充実させる。 ・校外販売実習を継続して実施して農大の魅力発信していく。	・学生のマーケティングの勉強も含め、農大で栽培された作物等の販売の機会を増やすことを提案 →農大祭等のイベントでの農産物販売に加え、校外販売実習機会を増やしたい。	
				○関係機関等との連携	・農業関係高等学校長との教育懇談会を開催（7月） ・農政・教育懇談会(8月) ・各農業関係高等学校訪問、校長との情報交換(12月、7校) ・県農業士会・女性農業士会との教育懇談会を開催(10/10)				・農業関係高等学校長会で情報交換 ・農業関係高校進路指導主事向け学校説明会の実施（再掲） ・県農業士会、女性農業士会との連携を深めるため、教育懇談会継続して実施する。
			経営学部 未来塾	○新規就農イベント等におけるPR ・新規就農相談会の紹介やトチノフェア等への参加 ・未来塾受講希望者の希望品目を積極的に採用	・トチノフェアへの参加(再掲) ・パワフルアグリフェアへの参加(再掲) ・未来塾受講生の栽培希望品目を採用				・引き続き新規就農イベント等に積極的に参加し、農大の魅力発信 ・東京で開催される新農業人フェアにブースを設け、積極的に勧誘オース（再掲）
			(2)入試方法の改善 生産学部 経営学部	○出願期間等の改善 ○実施時期、出願期間等の随時見直し ・他の農業系大学の入試実施日を考慮 ○合格者への情報提供（後期） ・入学までの校内イベントや、県の就農相談等の情報提供	長期に出願期間を設定（出願機会の増） ・いちご学科合格者に対し、トチノフェアの情報提供 ・新入生オリエンテーションで農大だよりを配布				四大等の受験生も受験できるよう一般後期及びいちご学科第3回の入試実施日を可能な限り遅く設定する。 ・本校イベントやOC、県就農相談等への参加を呼び掛ける。